

1 来 歴

岡山県農林水産総合センター森林研究所では、1981年、貿易商社を通じて、中国から「チュウゴクグリ*」の実を入手し、当研究所内で育成した。この中から、有望な3個体を選抜し（阿部 2007）、2007年2月9日に種苗法に基づく品種登録の出願を行った。翌2008年3月13日、正式に品種名「岡山1号」、「岡山2号」及び「岡山3号」として品種登録された（西山2012、西山 2017b）。2018年度現在、上記3品種のうち、「岡山1号」と「岡山3号」の2品種を中心に、「岡山甘栗*」と称し、県北部勝英地域において産地化を進めており（表-1、図-1 参照）、2018年度からは、本格的に収穫が開始されたところである（図-2 参照）。

なお、日本国内におけるチュウゴクグリの産地は、現在、岡山県新見市哲西地域を中心に、「哲西栗*」〔品種名：傍士（ほうじ）360号*〕が、一部栽培されているのみである（今井 2014）。

表-1 岡山甘栗の年度別植栽本数（購入苗のみ）

年 度	植栽本数		備 考 (主な植栽地)
	全 体	旧JA勝英管内	
2010(H22)	707	65	美作市(旧美作町)
2011(H23)	1,175	728	美作市上山地区(旧英田町) 勝央町河原地区
2012(H24)	2,019	1,756	美作市宗掛地区(旧勝田町) 津山市勝北地区(旧勝北町)
2013(H25)	1,200	1,007	
2014(H26)	1,040	740	
2015(H27)	1,200	889	
2016(H28)	527	410	
2017(H29)	701	150	津山市大岩
2018(H30)	407	176	
2019(R1)	755	315	
	9,731	6,236	全体 24.3ha JA勝英管内 15.6ha

- 注1. 県果樹苗木生産販売組合への聞き取りによる
 2. 2016年度以降、全体の欄に県外分含む
 3. 旧JA勝英:(現)JA晴れの国岡山

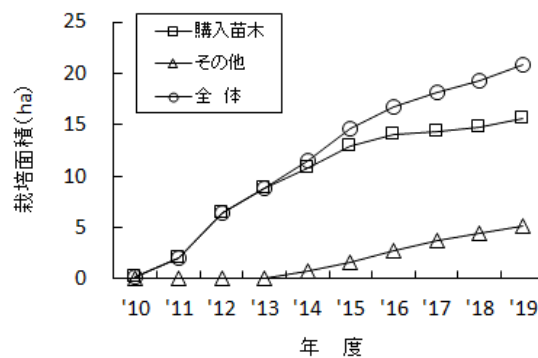


図-1 岡山甘栗の栽培面積推移（旧JA勝英管内）

注. 旧JA勝英:(現)JA晴れの国岡山

2 栽培

(1) 適地の選定

1) 気象条件

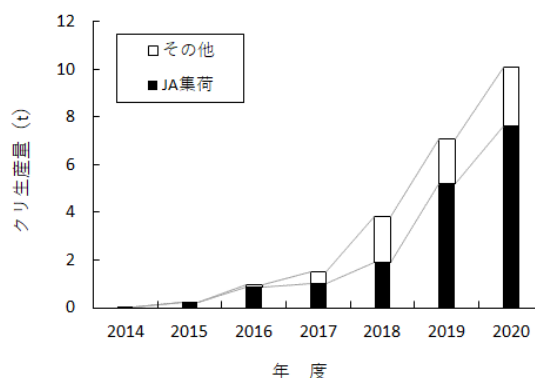


図-2 旧JA勝英管内における年度別岡山甘栗生産量の推移
注. 旧JA勝英：(現)JA晴れの国岡山

国内におけるニホングリの栽培範囲は、現在、東北～九州南部までであり、クリ属自体の適応範囲は広いと考えられる。

ニホングリ産地の年平均気温は 10～16℃、年間降水量は 1,000～2,600mm 程度となっているのに対し、チュウゴクグリ*の最大産地である中国・華北地区(図-3 参照)の年平均気温は 8～12℃、華中地区は同 15～17℃である(猪崎 1978)。

なお、「岡山1号」は、河北省*よりさらに北部に位置する東北地区の遼寧省産のチュウゴクグリの実生由来であり、同省(瀋陽市)の年平均気温は 8.5℃、年降水量は 690.3mm となっている(遼寧省瀋陽市 HP)。

一方、「岡山3号」は華中地区の湖南省産の実生由来であり、同省(長沙市)の年平均気温は 17.5℃、年降水量は 1,468.8mm となっている(湖南省長沙市 HP)。以上のように、「岡山1号」と、「岡山3号」では、その生育に好ましい環境(気温、年降水量)は異なる可能性がある。

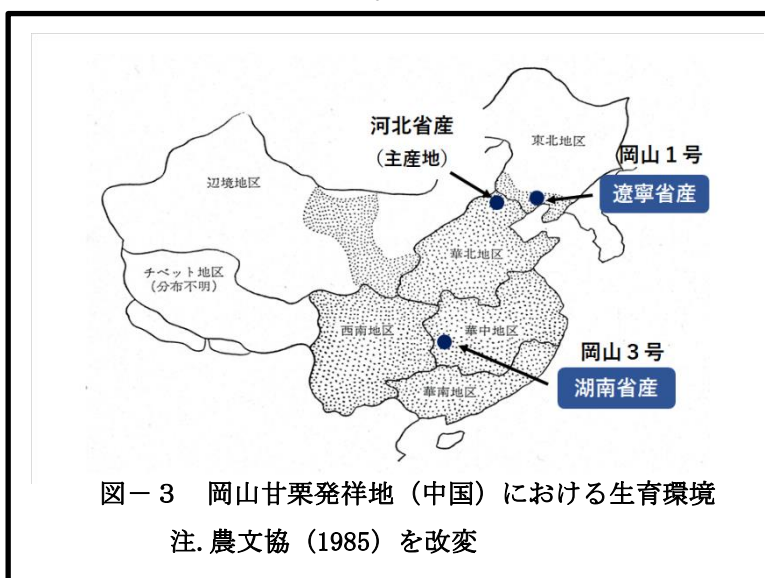


図-3 岡山甘栗発祥地(中国)における生育環境
注. 農文協(1985)を改変